

目次

【凡例】

4

明治（明治十一年七月～明治四十五年七月）……………5

大正（大正二年七月～大正十五年十月）……………27

昭和（昭和二年四月～昭和四十年十月）……………44

●日清戦争始まる【明治二十七年八月一日】

【明治二十八年二月二十日読売新聞】

○川越祝勝会

同会は去る十七日川越町に開き、来会者一万余名は早朝同町氷川神社に集り「陸海軍万歳」「祝清国艦隊降伏」等の大旗及び小旗数百旗を押立て、甲冑を装うたる武士の一隊これが先駆となり、次に擬砲兵隊有志者中隊となり最後の兵站部ありてこれに従い盛んに市中を練り歩き同市最南の郊地に至り豚追い、花火、野試合その他の余興あり非常の盛会なりしと。

【明治二十八年九月十一日いはらき】

○石岡鎮守祭延引

石岡町なる常陸国総社宮にては例年九月九日を以て同祭挙行し来りしが、昨年は日清戦争中の事として延引せし故、是非本年は執行せんと向もありしが本年も未だ台湾の戦争中、且つは悪疫流行の折からとて氏子総代の注意により陰暦九月九日を以て祭典を執行することとなりし由。

【明治三十二年二月十八日静岡民友新聞】

○祭典の日延

磐田郡笠西村法多山の田植祭は一昨日が相当日なりしが雨天なりし為め更に今十八日に日延べせり。また小笠郡横須賀の祭禮も同様日延べしたるよし。

【明治三十三年九月七日いはらき】

○総社神社の昇格

石岡町の総社神社は今回県社に昇格せしを以て明日告祭式を執行する都合にて柏田知事も特に参列する筈なり。

【明治三十四年十月二十五日東京朝日新聞】

○川越町の大祭禮

埼玉県入間郡川越町鎮座の氷川神社にては既記の如く昨日より三日間大祭を執行する事となりたるが同祭禮は久しく中止なしいたる事として各町内の氏子連は何れも大意気込みにて種々の催し物あるうち志木町より曳き出す山車は南町高澤と同じく人形は法橋秀英の作にて菊池容齋がその飾りつけに意匠を凝らしたるほどありて東京にもちよつと見当たらざるほどの物なりと。また、六間町より曳き出す三番叟の山車は破風造り二重高欄附にて今度三千圓余を支出して新調せしものなれば殊に美々しく女の子は友禪縮緬の五枚重ね、男は五つ紋付のそろいを着して右の山車を曳き出す由となるが南町、鍛冶町その他の各町は何れも劣らず仕度中にて同地は近來稀なる賑わいという。 ※志木町→志義町 六間町→六軒町

【明治三十五年五月十五日東京朝日新聞】

○祭典

南多摩郡八王子町字横山の天王祭は来る二十三日より五日間大祭を執行する由なるが同町にては天王と八幡の両祭が最も盛んなる祭事なれば今回も全町造花の軒提灯を掲げ囃子屋台及び山車数本を出し、なお神輿の渡御あり方々大いに賑うべしと云えり。